

# 小学校・高学年 第2部 4 「あいさつについて」

- 1 学 年 第6学年
- 2 主題名 「あいさついっぱい」
- 3 内容項目 2 - ( 1 ) 礼儀
- 4 テーマ C 人を思いやる心、人とのつながり

## 5 主題設定の理由

### (1) ねらいとする価値

クラスの児童の行動で気になるのは、「家庭ではあいさつをしている」と言うのに、学校で積極的にしている児童の少なさである。目上の者に会ったらあいさつをする。これは基本的な礼儀だと考えている。教室に入ってくる時にも、無言で入って来るのを何とも思わない。地域で大人に会っても、自分たちからはなかなかあいさつができないのが実情である。友達に対しても、そして目上の人にも、きちんと自分からあいさつができる礼儀正しい態度を養いたい。また、あいさつの大切さについて、じっくりと考える機会としたい。

### (2) 資料について

本資料を選んだ理由は、以下の二つである。まず児童作文であることから、主人公に寄り添いやすい資料である。次に、高学年の視点で家庭や学校生活で感じたことが綴られていることから、日常の指導と関わらせる総合単元的な道徳学習として取り組みやすい内容である。これらの理由には、本校児童の実態が大きく影響しているし、担任としての児童への願いも大きく関わっている。本資料を活用することにより、あいさつについて深く考えさせ、日常活動での実践につなげたい。

## 6 各教科等との関連

日常のあいさつ活動

## 7 本時のねらい

礼儀正しく、真心を持ってあいさつしようとする態度を養う。

## 8 授業改善の視点

資料の主人公に寄り添わせ、しっかりと共感させる。

道徳の授業で一番よく使われる方法が、主人公に共感させ、ねらいを捉えさせる方法である。しかし、主人公の気持ちは資料に書いてあることが多く、それを中心に発問をしていくと、「共感」させるのではなく、資料に書いてあることを「確認」するだけの、読みとりのような授業におちいりやすい。そこで、そのことに注意をはらいながら、子ども達が主人公と共にあいさつ運動について考え、あいさつをしてもらえなかったときの悔しさに共感できるようにしたい。発問では、そのときの気持ちをただ尋ねるのではなく、どうしてそう思ったのか、どれくらい思っているのかなど、一問一答にならないように切り返す。また、周囲の児童に意見を求めて話し合いを広げる。特に中心発問の部分では、十分に主人公のわたしに共感できるようにしたい。



み つ め る	3 校門で朝のあいさつをしている校長先生の話を書く。	校長先生の話聞いてどんなことを思いましたか。 ・もっとあいさつをしようと思う。 ・あいさつは「魔法の呪文だ」という言葉が印象に残った。	・自分の日常を見つめるきっかけとする。	自らの振り返り <観察>
あ た た め る	4 応援メッセージを読み、感想を書く。	応援メッセージを読むので一緒に目を通しなさい。  今日の道徳の感想を書きましょう。		実践へのそっとした決意” <観察>

10 板書計画

**あいさついっぱい学校にしようというわたし**

- ・大事なこと
- ・わたしたちもできたらいいな

泣きそうになったわたし

あいさつ運動について

・自分もそういつ時がある  
・相手に悪いことしたと思う

はずかしさに負けていたわたし

大事なこと  
良い取組  
自主的にやるのはいいこと

・友達のがんばりが伝わってきて  
・一生懸命な友達に気持ちがあふだんの自分をふりかえると…

やらされているのは、あいさつではない。

・その通りだと思っ  
・ぼくも元気が出る  
・低学年の子がぼく  
・につられて言っ  
・くれる

いろいろな意見について

11 総合単元的な道徳学習計画

テーマ・・・・・・・・・・あいさつ いっぱい  
育てたい子どもの心・・・・自然に、だれとでもあいさつができる心を育てる。

時期	日常生活 事前事後活動	教科・道徳・特活等	教師のねらい 子どもの意識の流れ
6月下旬 ↓ 7月中旬	校門での、校長先生とのあいさつ ↓ 学級での指導 ↓ 昇降口での、担任とのあいさつ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>道徳 あいさついっぱい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料名「あいさつについて」(京の子ども明日へのとびら)</li> <li>・内容項目 2 - (1) 礼儀</li> <li>・ねらい 礼儀正しく、真心を持ってあいさつしようとする態度を養う。</li> </ul> </div>	<p>昇降口でもあいさつの声があふれている状況を作る。先生よりも先にあいさつをしよう。廊下でも先生にあいさつしよう。</p> <p>心のこもったあいさつをしようとする態度を養う。あいさついっぱいの学校になったらいいな。ぼくもこれから意識してあいさつをしよう。登校班の人にも声をかけて、あいさつを増やしていこう。</p> <p>教室にはいるときにも、おはようと声を出そう。なかなか難しいことだな。言い慣れないと声が出ないな。恥ずかしいなあ。</p>

## 12 授業者の振り返り

これまで生徒指導の面だけのあいさつ指導になっていたが、道徳の授業で主人公に寄り添い、「あいさつ」について深く考えられたことは、意義深かった。また、総合単元的な道徳学習を組むことで、教師と子どもが継続してねらいを意識できた点もよかった。

課題としては、あいさつについて意識をさせることはできたものの、「本校の伝統としたい」という担任の願いについては、まだまだ到達していない。今後必要な取組について、十分検討したい。

## 13 児童の反応等

(終末の児童感想文より)

私は家で毎日あいさつをしています。学校でも、校長先生やろう下で会った友達や先生にもあいさつをします。地いきの協力員の人たちにもします。

でも、教室に入ると、女子だけならするけど男子にはあまりしません。

私にも、はずかしさに負けているところがあります。今日の話の女の子が、「泣きそうになりました」というのを読んで、私は、あいさつ運動をしてくれている人の気持ちを考えると悲しくなったんじゃないかなと思います。

自分はあいさつをしているのに、返してくれないときの気持ちは同じだなと思いました。私も大人の人にあいさつをしても返してもらえなかったことがあるからです。

わたしは、高学年になってあたりまえにあいさつをします。あいさつをすると、1日がわくわくするし、元気ももらうし、心の中がすっきりします。...

...あいさつがいっぱいの学校にしたいので、これからは、学校に着いたら、上ぐつにはきかえずに班日誌を書いて、昇降口に行き、あいさつを先生にして、先生といっしょに昇降口であいさつをしたいと思います。

あいさつについて思ったことは、あいさつは人と人の心をつなぐ大切なものだということです。それだけに、「おはよう」ということばの中に、いろんな気持ちを入れて言わないといけないんだなと思いました。

ぼくは、一応あいさつしてるけど、今度からは心を込めてあいさつしたいと思いました。もちろんでかい声を心がけようと思います。

...あいさつを学校でするのがはずかしいということが、わたしはすこし分かります。あいさつをする習慣になれていない人などは、あいさつをするのがはずかしいと思います。

...わたしも心をこめては言っていませんでした。やっぱりあいさつって気持ち、心をこめて言っているのが本当のあいさつだと思いました。...